

令和3年 新年あいさつ

皆様、新年明けましておめでとうございます。  
清々しい新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

今年から、年始の訓示は止めようと思っていました。村の賀詞交歓会で挨拶をしますので、それを訓示の代わりにしようと考えていましたが、残念ながら、今年は賀詞交歓会が中止となってしまいました。そこで、改めて、皆さんへ新年のメッセージを伝えることとしました。

年末年始を振り返ってみますと、30日には、地震が発生し、ちょっと心配しましたが、大事には至らずホッとしたところです。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。31日に東京都で1300人を超える感染者数が確認され、状況はますます厳しくなってきました。その後、年が明けて2日には、首都圏の4都県知事から、緊急事態宣言の発出を政府に求める動きも出ており、今後の動向が気になるところです。幸いにして、本村では、ここ数日、感染者が確認されておりませんが、引き続き、緊張感を持って対応してまいりましょう。

今年は「ウシ年」であります。昨年の「子」（ねずみ）は、“種子の中に新しい生命がきざし始める状態を表している”とのことでしたが、今年の「丑」（ウシ）は、“種子の内部で芽が伸びきらない状態を表しています。まだ、姿は見えないものの、着実に成長している過程であり、次のステップへ向けた大事な時期であると考えられます。

この丑年生まれの人々の性格は「忍耐強くてマイペース」という一方で、「頑固でプライドが高い」といった一面もあるようです。また、「努力家で晩成型」とも言われていますので、年男年女の皆さん、自信を持ってください。ちなみに、私自身が年男であります。

さて、昨年が、コロナ禍で大変な年であったことから、今年は、「良い年にしたいね」という声を数多く聞きますが、決して「安寧」だけを願うのではなく、こういう時代だからこそ、私は、「変化」や「進化」が求められてくるのではないかと考えています。

そして、そこには、「レジリエンス」の考え方がとても大事になってくると思っています。皆さんも、最近よく見かける言葉だと思いますが、「困難から立ち直る力」であり、「しなやかな強さ」を意味しているとも言われます。

今、社会の関心事は、「コロナ」ですが、「コロナが終息すれば、元に戻る」というわけではありません。社会の変化は、今回のパンデミックほど劇的ではなくても、常に起こっていたはずです。私たちは、それに気付いていなかったのか、上手く対応できてなかったんだと思います。それが、このコロナ禍で顕在化したということでしょう。デジタル化の遅れは、まさにそれを象徴しています。災害対応、環境問題、福祉問題などでも同様に考えさせられます。

私が、今日、皆さんに伝えたいことは、  
“「レジリエンス」を意識しながら、仕事に取り組んでもらいたい”  
ということです。

まず、マインドが重要になります。我々の仕事は、プレッシャーやストレスが多いと思われませんが、どうやって乗り越えていくのか？それには、常に冷静に現実を直視し、受け止める覚悟が必要です。自分勝手な思い込みで結論を出すのではなく、多角的に物事を捉えることが大事です。私も含めて、是非、実践してまいりましょう。

そして、仕事に対する姿勢ですが、「真面目で正確に」という固定観念から、時には自分を解放し、トライ&エラーを恐れない。職場もそれを否定しない。そうした環境を皆で造っていきましょう。そこで生まれる小さな成功体験が、やがて、“しなやか”で“したたかな”強さを身に着けることに繋がっていくことになるでしょう。

皆さんの活躍を期待しています。

今日は、個別の業務については触れませんでした。それぞれの仕事において、部課長の皆さんには、リーダーシップを発揮しながら、課題解決に向けて、積極的にチャレンジしていただきたいと思います。

結びに、今年が、東海村にとって、飛躍の年となりますよう祈念しまして、年頭のあいさつといたします。

皆さん、一年間、よろしく申し上げます。